

■令和2年度第1回（第301回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 令和2年7月21日（火）午後2時00分～午後2時50分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、日野副市長、高橋副市長、阪口副市長、水道事業管理者、
都市戦略本部長、総務局長、財政局長、総合政策監、都市局長、

【議 題】 大宮GCSプラン2020（案）について

< 提 案 説 明 >

大宮GCSプラン2020（案）について、都市局から次のような説明があった。

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により延期していた「第10回大宮グランドセントラルステーション推進会議」を7月1日に開催し、当該会議における意見等を踏まえ、「大宮GCSプラン2020（案）」を取りまとめたことから、当該プランの内容を説明するとともに、パブリック・コメントを実施することについて、審議をいただくものである。
- ・ プラン（案）の名称は、これまで「（仮称）GCSプラン（案）」としてきたが、推進会議においてご意見をいただき、今後は「大宮GCSプラン2020（案）」とすることとした。
- ・ 背景としては、新型コロナウイルス感染症が社会や我々の生活に与えた影響は大きく、これまで前提としてきた条件等も変わっていく可能性があることから、新しい生活様式によるまちづくりについては、今後具体の議論がなされていくこととなることを踏まえ、これまで議論してきた内容を一度プラン（案）としてまとめ、検討の深度化と並行して、ウィズコロナ・アフターコロナを踏まえた議論を進めながらアップデートしていくことを想定している。
- ・ GCSプランの位置づけと構成について、平成30年7月に策定した「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」において、大宮の果たすべき役割を踏まえた整備の方針や整備方針を踏まえた具体的な取組内容について取りまとめを行っていることから、当該構想を具体化し、実現可能なものにしていくための計画である。
- ・ 構成について、3つのパートに大別している。
- ・ 1つ目のパートは、大宮のまちづくりを進める上での前提となる視点やまちづくりの戦略を整理した「GCSプランの方向性」である。
- ・ 2つ目のパートでは、基盤整備や民間開発等のまちづくりを実施する際のルールをまとめた「まちづくりガイドライン」である。
- ・ 3つ目のパートは、ガイドラインを踏まえて交通基盤整備や駅機能高度化の考え方

を整理した「個別整備計画」である。

- ・ 「個別整備計画」については、今年度より設置するテーマ別検討会等によってプラン策定後も深度化・実現化を図る予定である。また、「まちづくりガイドライン」についても、社会情勢等を踏まえ、適宜見直しを図っていく予定である。
- ・ 方向性について、「まちづくりの前提となる視点」として、大宮の特性やまちづくりの課題を整理した上で、「大宮のまちづくり戦略」として、「経済」「社会基盤」「環境」の3つの分野で戦略を立てている。また、「まちの将来像」については、大宮の将来の姿について、街なかでの人の活動や、氷川神社・氷川参道といった地域資源と大宮駅とのつながりに着目して描いているものである。
- ・ まちづくりガイドラインについて、ガイドラインの目的は、各種基盤整備や民間開発を実施する際のルールや、公共貢献による容積率の緩和など、都市計画の運用の指針とすることである。ガイドラインの中では、都市空間形成の目標として、6つの目標を定め、目標の下に、24の整備の指針と45の方策を掲げている。整備の指針と方策については、今回、地元の皆様と概ねの方向性を共有した内容について整理しているが、引き続き内容を検討をしていく
- ・ 回遊性に関する方策「交流広場の整備」について、交流広場は、まちと駅、まちと人をつなぐ新たな基盤である「(仮称)アーバン・パレット」を構成する要素となっており、地域の夏祭りやスポーツイベントでのパブリックビューイング等に活用できる空間として位置づける。
- ・ 回遊性に関する方策「(仮称)ストリート・テラスの整備」について、歩行者のための空間として、民間敷地と道路を一体的に整備し、建物内の沿道商業の賑わいがにじみ出し、歩いて楽しい「ウォーカブル」な空間を生み出していくことを位置づける。
- ・ 景観に関する方策「シンボル性のあるデザインの誘導」について、まちの象徴となる都市軸の整備や、大宮を象徴するシンボル性の高いランドマークを創出していくことを位置づける。具体的にどのようなランドマークとしていくかについては、来年度以降、周辺街区の建築計画の進捗と合わせて、検討を進める
- ・ 個別整備計画について、構想実現案、駅改良計画、道路整備計画、交通需要マネジメントの4つの計画がある。
- ・ 構想実現案については交通広場：地下車路ネットワーク、駅改良計画については新東西通路・ロの字ネットワーク：東武大宮駅改良、道路整備計画については中山道地下バイパス化・大宮岩槻線4車線化、交通需要マネジメント計画については地域全体に関する駐車場地域ルール等が内容である。なお、個別整備計画の内容は、現時点において今後の検討に向けた与条件を「到達点」として整理しており、最低限必要な範囲に留めている。
- ・ 構想実現案については、骨子(案)の段階では、交通広場を「中地区に配置する案」「南地区に配置する案」の2案を検討してきたが、プラン(案)においては、整備の考え方として、交通広場の必要施設量(規模)はバス・タクシー・一般車ごとに必要となる機能を確保し、広場面積は約1万㎡とすること、中地区を中心に活用してL字型に配置すること、地上の交通広場は公共交通を優先とすること、地下車路

を整備し、一般車や荷捌き車両の利用を想定することを整理している。交通広場の詳細な位置、デッキの規模・形状、地下車路ネットワークの出入口等については、引き続き開発街区やJR等との調整が必要である。全ての個別整備計画に今後の検討課題が整理されており、今後の検討によって、変更の可能性があることを示唆している。

- ・ 駅改良計画について、骨子（案）の段階では、東武大宮駅の南進距離が異なる2案を比較し、新東西通路の規模は10～20mとしてきたが、プラン（案）においては、整備の考え方として、新東西通路の規模は必要幅員15mに構造体の幅や側方余裕を加えた幅員とすること、東武大宮駅は現在より60m程度、新東西通路のやや南側まで南進し、橋上化して改札口を設置することを整理してきた。15mの幅員については、東武鉄道とJRの乗換利用者を全て新東西通路を使い乗り換えた場合でも、朝晩のピーク時に自由歩行が可能なサービス水準を満たすものである。今後の検討課題としては、新東西通路の位置や、東武大宮駅の地上改札口の必要性について議論すること等である。
- ・ 道路整備計画について、整備の考え方として、長期と短・中期の2つに分けて考えている。現在も渋滞がみられる駅周辺だが、開発に伴う交通負荷を含めて抜本的に改善していくためには、中山道の地下バイパス化と、大宮岩槻線の4車線化が必要であるが、道路整備には相当な時間を必要とすることから、当面は、段階的な開発、段階的な基盤整備の状況に応じて、交通需要マネジメントで混雑緩和を行い、少なくとも現況以下に抑えていくことを目標としている。今後は、中山道地下バイパス化、大宮岩槻線4車線化の実現可能性を精査するとともに、交通シミュレーションの精度を上げていく。
- ・ 交通需要マネジメントについて、優先施策を整理しているが、その中でも、大宮駅周辺を対象とした駐車場地域ルールを作っていくことを施策の柱としている。
- ・ 駐車場地域ルールの基本方針については、駅周辺への交通流入を抑制するため、駐車台数を見直すこと、歩行者優先の駐車環境をつくるため、駐車場の隔地化・集約化を進めること、まちづくりと一体となった整備・誘導を図るため、都市再生特別措置法に位置付けられた駐車施設配置計画を活用することである。今後は、検討を深度化させて、計画の作成や条例の見直し等を進めていく。
- ・ 今後のスケジュール案について、9月からパブリック・コメントを実施し、頂いた意見を踏まえ、次回の推進会議において、改めて取りまとめて、令和2年度末には大宮GCSプラン2020として公表する予定である。
- ・ 今年度においては、引き続き推進会議を開催し、ガイドラインと個別整備計画の整合の確認や、プラン全体の進捗確認を行うとともに、テーマ別のプロジェクトチームにて個別整備計画の深度化・実現化を進める。
- ・ プラン策定後は、新型コロナウイルス感染症による影響など、現在欠けている視点について有識者からの提言を受けつつ、個別PTにおいて、引き続き個別整備計画の深度化・実現化を進めていき、関係者との合意形成の図れたものから、説明会等をはじめとする都市計画決定の手続きに着手する予定である。

< 意見等 >

- ・ まちづくりガイドラインの6つの目標の内、4の安全安心の要となるまちをつくるに防災の方策案が入っているということによいか。
- お見込みのとおり。4-1、3が主な方策案であり、市民からの意見を踏まえ、取り入れている。
- ・ 交流広場では、これまでのように、地元の祭りができるということによいか。
- お見込みのとおり。
- ・ 大宮を象徴するシンボル性の高いランドマークについて、大宮駅だと一目でわかるようなものがよい。
- 建築計画の進捗に合わせて検討していく。
- ・ 東武大宮駅は現在より60m程度、新たに整備する新東西通路のやや南側まで南進するとの説明があったが、現在のどのあたりか。
- ホームの北端が60m程度南進するため、現在の改札口南側のエスカレーターの付近までホームが来る。橋上化して改札を設置する予定である。
- ・ 地元の方々や鉄道事業者等との検討状況は。
- これまでも地権者の方々や鉄道事業者等とともに、推進会議等において様々な検討を行ってきた。今後は、さらに周辺地域の方々も加えて検討を行っていく。
- ・ 各地区の進捗状況は。
- 北地区については、準備組合において引き続き検討を行っている。中地区については、6月に事業協力者が選定され、今後、総会にて決定していく予定である。南地区については、9月～10月頃に準備組合を設立していく予定である。西地区については、地区内を南北に分けて検討していくと伺っている。
- ・ 今後の検討においては、デジタル化も含めて、ソフトの部分も意識したハードづくりを検討していく必要がある。また、個別の事業が進んでいくと、全体的な進め方との整合や調整が重要になる。財政状況も踏まえ、事業費の精査や財源の確保も考えていかなければならない。情報発信も工夫し、地元の期待に応えるような、民間企業が入ってきたくなるようなまちにしていく必要がある。

< 結果 >

大宮GCSプラン2020（案）については、原案のとおり了承とする。

< 会議資料 >

大宮GCSプラン2020（案）について